

本日で1学期が終わります。皆さんにとって、令和7年度の1学期はどのような期間だったでしょうか。1学期を振り返ってみると、農業クラブフラワーデザイン競技で、2年生の有間さんが最優秀賞を取り10月全国大会に出場、相撲部は県総体、四国総体で団体2連覇を果たし、この夏インターハイに出場します。また、たくさんの部が県総体で初戦を突破するなど、皆さんの頑張りが成果として表れた学期だったと思います。一昨日の野球応援でも、選手はもちろん応援の皆さんも最後まであきらめない姿を見せてくれました。

加えて、昨日、地域の方からうれしい電話をいただきました。野球応援で疲れて返った一昨日の夕方、大橋で事故を起こしたおばあさんがおられたそうですが、気が動転しているであろうおばあさんに対して、通りかかった本校の生徒3人が親身になって接してくれて、とてもうれしかった、という内容でした。3人というのは、野球部の兵頭君、鈴木君、相撲部の兵頭瑛太君です。3人の誠意ある行動に、皆さん拍手をお願いします。

今年はこれまでになく早い梅雨明けとともに猛暑で皆さんも疲れを感じる人が多いと思います。夏休みは、自由になる時間が少し多くなるので、普段できないことをめいっぱいすることも大切だと思いますが、規則正しい生活としっかり食事を摂るなど、健康管理に努めてください。3年生にとっては、自身の進路を左右する大切な時期です。この夏休みに蓄えた学力や経験が進路選択を大きく左右することを肝に銘じ、できる限りの努力をしてください。

ところで、日常的に「マウントを取る」という表現を使う人が多いと思います。この表現は、2000年頃から流行りだし、いつの間にか定着してしまった言葉です。一般的に動物の行動の「マウンティング」に由来し、「自分が相手より上だと優位性をアピールしたり自慢したりする行為」を指します。レスリングなどでマウントポジションを取られてしまうと身動きができず、一方的に攻撃される、そんなイメージもありますよね。「え、そんなことも知らないの?」とか、「自分は」「自分が」と自慢するなど、マウントの取り方はいろいろです。自分のステータスを誇りに思うこと、思い出を大切にすること、経験・知識を人よりたくさん持っていることは良いことだと思います。が、それを聞いてもいないのに一方的にアピールされたり、自慢されたり、上から目線で見下されたりしてしまったら、された方は不快な気持ちになります。

マウントを取る人は、実は、承認欲求が強く、それは自分に自信が無いことからくるもので、だからこそ他人の評価が気になる、認められたいという気持ちが、つい行動に表れてしまうのだそうです。そういった人に振り回されないためには、距離を取る、無関心さを見せる、相手を持ち上げる、褒めるなどいろいろな方法があるそうです。

が、一番はマウンターの話を間に受けないこと・受け流すことです。鈍感なふりをし
て、「興味ないんで」とか「よく知らないんで」といった感じで受け流していると、この人
にマウントをとっても意味が無いと感じてマウントを取ることを止めるようです。

この話をなぜ皆さんにしようと思ったかという、人間関係に疲れたときは、是非一
人でいることを選択してほしいと思うからです。一人でいるといってもずっと一人でい
るわけではなく、自分の気持ちを優先してあげることやしなければならないことに集中
して、他人に振り回されない「自分軸」を作り、それを強いもの、強固なものにしてほし
いのです。明日からの夏休みは、自由になる時間があると先ほども言いましたが、そ
の時間を使って、自分としっかりと向き合い、マウントを取ったり、取られたりといった
関係から一歩前進できるよう、皆さん一人ひとりが「自分軸」を持った人となってほし
いと思います。

以上、長くなりましたが、8月27日、2学期の始業式に、全員が元気で、一回り成
長した姿を見せてくれることを期待して、1学期終業式の式辞といたします。

令和7年7月18日

愛媛県立野村高等学校長 松井 由紀子